

調べた。

1—54. 二重格子後流の等方性乱れに関する実験 (15) ○辻廣, 恩田善雄. 乱れの発生する初期条件をいろいろ変えて, 乱れの Reynolds 数が大きい場合の等方性乱れについて相似性を調べる目的で二重格子後流の乱れについて実験を行った。

1—55. 衝撃波管の整備試験 (10) 河村龍馬. ○齋藤春雄. 衝撃波管に最初に与える圧力比と得られる一様流の Mach 数の関係を三つの方法で実験的に求め理論値と比較する。

1—56. 衝撃波管による空気力学的実験に関する一注意 (15) ○河村龍馬, 齋藤春雄. 衝撃波後の一様流の中に置かれた物体廻りの流れと物体廻りの所謂定常流との間の差異を論ずる。

1—57. 曲つた衝撃波の後の流れについて (15) 小口伯郎. 曲つた衝撃波の後の流れが亜音速, 超音速の場合について夫々解析を行い, 迎角の大きな薄翼に適用した結果について報告する。

1—58. 新設遷音速風洞に就いて (15) ○河田三治, 廣岡貫一. 高速空気力学委員会にて完成した高速風洞の構造, 性能及び実験結果を紹介する。風洞の大きさ  $22 \times 12$  cm, マッハ数は 1 附近の実験である。

1—59. 室内通風についての実験 (15) ○勝田高司, 後藤滋. 規格型コンクリート造教室の 1/20 模型により教室内の気流分布を測定し, 開口の配分とその形式とについての計画方針をもとめた。

## 第 2 会場 9.00~12.00

### 生 物 化 学

2—34. トリクロロエタンの赤外線吸収 (15) 倉谷健治. 1, 1, 2-トリクロロエタンには 2 種の廻転異性体が実存していること, 及び両者のエネルギー関係についてのべる。

2—35. フェノール及びその誘導体の酸の強度について (15) 長倉三郎, ○峯岸安津子. フェノール, クロロフェノール及びクレゾールの pK,  $\Delta H$ ,  $\Delta S$ ,  $\Delta F$  を近紫外吸収スペクトルを用いて測定し構造との関係を検討する。

2—36. ベンゼン置換体におけるエネルギー準位の高さと電子移動効果の関係について (15) 長倉三郎, ○田仲二期. ベンゼンとその置換基の

エネルギー準位を推察することによつて, ベンゼン置換体の物理化学的性質を統一的に説明できることを示す。

2—37. 分子化合物の結合エネルギーについて (15) 長倉三郎, ○久保山昭. 分子化合物の結合エネルギーを吸収スペクトルにより測定する事を試みた。その結果について報告する。

2—38. カイコ膿病ウイルスについて (15) 渡辺格, ○川出由己, 中村正好. 膿病蚕の血液および多角体からウイルスを超遠心分離することを試み, 得られた分割の核酸の定量, 沈降測定を行った。

2—39. 超遠心機によるプロタミンの研究 (15) 宇井信生. サルミン, クルペインの 2 種のプロタミン (蛋白質) の沈降測定を行い, その均一性を確かめるとともに, 沈降定数の測定を行った。

2—40. 核酸の酸, アルカリによる加水分解生成物のペーパークロマトグラフィによる研究 (15) 鈴木堅之, DNA, RNA を, 5% トリクロール酢酸, 0.5 N 過塩素酸, 1 N 苛性ソーダなどで分解し, それらの構造と, 両者の相異について研究した。

## 13.00~

2—41. 回転バンド式分溜塔の性能について (12) 田村孝章. 今回試作した  $6\text{mm}\phi \times 150\text{cm}$  小型回転バンド式分溜塔の性能及び各種混合物の分溜曲線の一例をのべる。

2—42. 電気分析法によるアミノ酸類の分離 (12) 田村孝章. 電気透析により酸性, 中性, 塩基性の各アミノ酸を分離する場合における分離度と各種条件 (隔膜の種類, 濃度, pH 等) との関係についてしらべた。

2—43. 分別したクルペイン各区分の組成分析 (10) ○澤田文夫, 橋本千恵子, 山崎誠, 安藤鋭郎. ピクラートの溶解度差により分別したクルペイン (ニシン白子蛋白) 各区分のアミノ酸組成をしらべた。

2—44. イリジン (ニジマス白子蛋白) の組成分析 (10) ○三浦謹一郎, 山崎誠, 石井信一, 橋本千恵子, 安藤鋭郎. 完熟及び稍未熟のニジマスの白子蛋白のアミノ酸組成をしらべた。

2—45. トリプシンによるプロタミンの加水分

解 (15) ○山崎誠, 左右田徳郎, 安藤鋭郎. 結晶トリプシンをクルペインに作用させ, その加水分解物について, 遊離アミノ酸の有無, ペプチド類のアミノ基末端アミノ酸の種類を調べた.

2-46. カルボキシーペプチダーゼの精製 (12) ○飛田享, 山崎誠, 安藤鋭郎. 牛の膵臓から抽出したカルボキシーペプチダーゼの精製を盡し, その純度と活性を調べた.

2-47. 検圧式 Van Slyke 法の応用 (15) ○木村正己, 岩井浩一, 石井信一, 安藤鋭郎. 検圧式 Van Slyke 装置によりクルペインの末端アミノ及グアニジン窒素を定量し, その分子量を算定し, 分子中のアルギニンの状態も調べた.

2-48. プロタミン分子中のアルギニンについて (15) 橋本千恵子. プロタミン中のアルギニン含量及びその分子内の遊離グアニジン基につい

て, 坂口反応を用いた場合の結果を検討した.

2-49. 塩基性アミノ酸並にクルペインのイオン交換クロマトグラフィー (15) 石井信一. Amberlite XE-64 を使ったクロマトグラフィーによる塩基性各種アミノ酸の定量と, 同様な方法によるクルペインの均一性の検討を行った.

2-50. 含塩アミノ酸のイオン交換樹脂による脱塩 (15) ○黒崎昌子, 石井信一, 安藤鋭郎. Amberlite IRA-400 による標題の脱塩操作をフラクションコレクターを使つて検討した所極めて能率よく行われることがわかつた.

2-51. リポプロテイドの研究 (15) ○草間慶一, 左右田徳郎. 卵黄の Lipovitelline 及び Lipovitellinine を調製, 精製し, 組成をしらべ, 且つプロテアーゼを作用させた結果を検討している.